

韓国語のリスニングクラスにおける一考察

——グループワークを中心とした授業の試み——¹

林 河運

1. はじめに

本稿は、外国語としての初級韓国語教育における学習者の自主性及び相互学習の可能性について探求している。著者はこれまでに、学習者が主体的かつ協同的な学習過程を経験できるよう、全ての授業で小グループワークを中核とする教育手法を試行してきた。林（2014）によれば、文法を扱う授業において「グループ学習法」を導入した結果、学習者は教室内での活気ある交流を享受し、ゲームのような形式を通じて友人と協力しつつ自発的に学習を深めることができたと報告されている。続く林（2015）の研究では、リーディングクラスにおけるグループ学習の導入が、教室の活性化とともに、文章理解における自発的な学習を促進する効果があったことが示された。更に、林（2020）は韓国語能力試験対策クラスでのグループワークを通じた学習活動が、通常は受け入れがたいとされる試験対策という課題に対しても、リラックスした環境での愉快的な学習体験を提供し、肯定的な評価を受けたと述べている。これらの研究から、教育の内容が異なっても、グループワークを取り入れた授業の有効性には一貫性が認められる。そこで本研究ではこれまでの成果を基に、リスニングクラスにおいても同様のアプローチが効果を示すかどうかを検証することとした。具体的には、「韓国朝鮮語Ⅱ」のリスニングの授業²において、先行研究と同様に学習者の学習状況に関するアンケート調査を授業終了時に実施した。その後、回収したアンケート調査の結果を分析し、学習者がグループワーク中心のリスニング授業に対してどのような反応を示し、どの程度の評価を下したかを探る。

最終的に、本稿で得られた考察の結果と知見を活かし、韓国語教育の現場でグループワーク³を中心とした授業スタイルを用いて、学習者が主体性を持ち学習者同士が学び合える授業作りを確立しようと考えている。

2. 授業の実践状況

本稿で取り上げる「韓国朝鮮語Ⅱ」は、前期の「韓国朝鮮語Ⅰ」の単位を取得した生徒を対象に、後期に週1回の1単位の授業として開講されている。授業の対象の学年は全学部の1回生から4回生である。授業の目的は、よりリアルな韓国語の会話が聞き取れるように、韓国語の耳を作ることである。また、科目の達成目標として設けているのは、以下

¹ 本稿では、林（2014、2015、2020）で報告した内容を便宜上改めて述べている箇所が多々あることを断っておきたい。

² 筆者が2022年度の後期に担当した「韓国朝鮮語Ⅱ」のメニューのうち、リスニング科目の授業である。

³ 東京大学大学運営・政策研究センター（2018）によれば、学生に授業でグループワークや学生が参加する機会が必要であるかについて意識調査をした結果、非常に必要であると答えた人が22.6%で、ある程度必要であると答えた人が53.9%いたと報告している。つまり、大学の授業で7割以上の学生が授業でグループワークや学生が参加する機会が必要であると認識していることになる。

の4つである。

- (1) ハングル能力検定試験（ハングル検定）4級、韓国語能力試験1級程度の韓国・朝鮮語を理解し、適切に運用することができる。
- (2) 現代韓国・朝鮮語圏文化を理解することができる。
- (3) 英語以外の外国語を学ぶことで、日本語、日本文化をより客観的に見る視点を獲得し、多くの文化が共生する地球に生きている自覚と責任を持つことができる。
- (4) 大学生として新たな外国語を学ぶことで、これまでの学習方法や学習観を自ら振り返って客観化でき、それらを主体的・能動的に転換することができる。

2.1 授業科目の概要

本稿の調査対象は、後期に開講される「韓国朝鮮語Ⅱ」の必須単位である2単位のうち1単位を修得するためのリスニングクラスの生徒で、週1回の100分間の授業として開講されているクラスである。授業は全学部の学生が混在するクラスで行われ、医学部⁴を除く1回生から4回生が対象となっている。また、調査対象の学習者数は公式名簿上の登録者数から、多数の欠席により未修になった学生、ならびにアンケート調査実施時に欠席をしていた学生を除外した数となる。授業開始時点での具体的な学習者数は、「水曜日 5.6 クラス」が32名、「水曜日 7.8 クラス」が31名である。

<表1>

属性	学部	性別		学習歴			学年			
		男	女	8ヵ月程度	1年程度	2年程度	1年	2年	3年	4年
	法文学部	男	女	13人	44人	3人	1年	2年	3年	4年
	12人	4人	8人				13人			
	教育学部	男	女				1年	2年	3年	4年
	14人	2人	12人				12人	2人		
	人間科学部	男	女				1年	2年	3年	4年
	9人	0人	9人				9人			
	総合理工学部	男	女				1年	2年	3年	4年
	24人	18人	6人				20人	2人		1人
	生物資源学部	男	女				1年	2年	3年	4年
	1人	0人	1人	1人						
合計	60人 ⁵	24人	36人	13人	44人	3人	55人	4人	0人	1人

学年構成に関しては、主に1回生が中心であり、2回生と4回生は主に再履修生である。性別では、男性が24名、女性が36名で、合計で60名の学習者が授業に参加している。韓国語学習の背景については、自学により韓国語を習得して入学する学習者の数が増加傾向にある。その結果、大学入学後に韓国語学習を開始してから約8ヶ月経過した学習者が13名、

⁴ 医学部は前期の2単位が必須単位であり、キャンパスも異なるため後期の授業参加は不可能である。

⁵ 全員日本語母語話者であり名簿通りの人数は63名であるが、アンケート調査時に欠席をした学習者のアンケートを除いた人数である。

約1年の学習経験を持つ学習者が44名、約2年の学習経験を持つ学習者が3名であった。

3. 学習者主体の学び合える授業⁶を実現するための試み

本節では、2022年度後期に筆者が担当した「韓国朝鮮語Ⅱ」リスニング科目における学習者の主体性を促進し、相互学習が可能な教授法に関する試みを紹介する。

3.1 授業の具体的な実施方法

筆者は授業進行において、授業運営にあたり、以下の指導方針に基づき教育活動を展開している。(1) 実際に韓国旅行で利用可能な授業内容を提供する、(2) 辞書アプリケーションの積極的利用を促す、(3) 受動的な学習姿勢を脱却させ、知的好奇心を刺激し主体的な学びへと導く、(4) 学習者に達成感を体験させる、(5) 韓国及び韓国文化に対する関心を深めるため、文化的要素の紹介を随時行い学習意欲を持続させる、(6) グループワークを通じて連帯感を育成し協働学習を促進する、(7) iPadを用いた板書により、無駄な時間を削減し学習効率を向上させる⁷、(8) Moodleを活用し、授業関連の補助資料を提供することで自主学习を容易にする

3.1.1 授業の進行手順

以下に、授業進行の詳細を示す。

- (1) 学習者との接触機会を増やすため、授業開始10分前に教室入室し準備を行う。
- (2) 授業開始時にMoodleを用いた小テストを実施⁸。(10分)
- (3) 小テスト後は、ウォーミングアップとして間違いやすい発音のリスニングを練習させ、解説を提供。(20分)
- (4) 辞書アプリケーションを使用し、旅先で使える表現のリスニング練習を行う。この際、教員はクラス内を巡回し、答えが見つからないグループのフィードバックを提供。(30分)
- (5) 学習した表現を使った応用編の個人練習問題によるリスニング練習と復習を促す。この際はグループではなく個人で学習するように促している。(10分)
- (6) 学習者にはモニタリングシート⁹を記入させ、学習内容の自己評価を行う。(10分)
- (7) 次回の授業に向けて覚えるべき単語¹⁰と概要を紹介。(5分)

⁶ 中野・三田地(2016)は、大教室での参加型授業を試みた実践をし、学生のコミュニケーション力や意欲や主体性が育まれる「学び合い」の場づくりが可能であると述べている。また、参加型授業の学生にとつての意義は大きく4つになると報告している。具体的には、多様な価値観に触れ、「世界」は広がること、生身のコミュニケーション力が上がること、主体性が育まれ、意欲も上がること、学び合う「楽しさ」に目覚めることである。

⁷ 教員が授業の解説を書いたり消したりする時間の無駄を減らすことと、教員の背中で板書が見えなくなったりしていた短所を無くすことにより学習時間の確保にもつながる。また、タブレットを用いることによりテキストの内容を写真として提供でき、さらに授業内容の拡大縮小も自由自在なので学習効果は大きいと考えている。

⁸ Moodleを用いた小テストは、体調が悪くて欠席をした学習者に対しても瞬時に対応ができる長所がある。

⁹ モニタリングシートの記入は小テスト終了後から、随時記入するようにしている。

¹⁰ Moodleに音声資料の動画を提供し、各自直接確認するようにしている。これは、一緒に音読させる時間を活用して韓国の文化などを紹介するためである。

(8) 時間の許す限り、PPTや映像資料を用いて韓国文化やK-POPの歌などの紹介を行う。これは文化間の違いを理解し、学習者の韓国や韓国語に対する興味を喚起し、主体的な学びへと導くことを目的とする。(15分)

3.2 授業実施における工夫

以下に、「韓国朝鮮語Ⅱ」のリスニング授業を通じて筆者が試みた教育的工夫について記述する。

3.2.1 グループワークを中心とした学習式

3.1で述べた「(1)実際に韓国旅行で利用可能な授業内容を提供する、(6)グループワークを通じて連帯感を育成し協働学習を促進する」を達成するために、グループワークを中心とした学習活動を授業中に積極的に取り入れて行った。そこで、筆者は以下のような点に十分配慮し、グループワークを中心とした学習活動が効率的な活動として機能できるよう工夫を凝らした。

3.2.1.1 グループの編成方法

学部間の交流を促進し、均等な参加意識を醸成するため、男女比と学部比を考慮してグループを編成した。

3.2.1.2 リーダーの選出とグループ名¹¹の決定

グループのリーダーの選出は初回の授業時にグループ分けをし、メンバー同士間のじゃんけんで決め毎回交替するように促している。また、グループ名の決定も初回の授業時にメンバー同士で話し合っ決めてさせている。これは、共通の名前のもとにグループワークをすることで連帯感を醸成させ、そのグループ内での学習意欲を向上させるのが目的である。

3.2.1.3 教室選定

教員がグループワークを円滑にサポートできるよう、机と椅子が動かしやすく、スペースに余裕がある教室を選定した。

3.2.2 グループのメンバー間の情報共有を通じた学習

これも3.1で述べた「(1)実際に韓国旅行で利用可能な授業内容を提供する、(6)グループワークを通じて連帯感を育成し協働学習を促進する」を実現するために加えた学習活動である。グループワークとして役割分担をし、調べた内容と答えをメンバー間で情報共有を通じて、分からない単語や表現などを意見交換ができるため、リラックスした雰囲気の中での効果的に学習することができるであろう。

¹¹ 極力、韓国や韓国朝鮮語に関連するものにするように促している。

3.2.3 辞書アプリ（音声検索を含む）を活用した学習

3.1 で述べた「(2) 辞書アプリケーションの積極的利用を促す、(4) 学習者に達成感を体験させる」を叶えるため、初回の授業時に全員辞書アプリをダウンロードしてもらい授業を行っている。その際、メンバー同士で同じ辞書アプリをダウンロードさせるではなく、異なる3種類のアプリ¹²をダウンロードさせ回答の多様性を生み出している。それにより、メンバー間での意見交換が活発になると考えられる。また、音声検索を積極的使用させ聞いた内容を正確に発音し検索するようにしている。つまり、正しい発音の重要性を理解させることで、学習者自身の発音の正確さに気付くこととなり、やる気と達成感が生まれてくるだろうと判断される。しかし、このとき注意を払うべき点は教員の発音を真似して音声検索することは可能とするが、教員の発音そのものを音声検索することだけは使用を控えるよう指示を出すことです。

3.2.4 モニタリングシートによる自己評価

3.1 で述べた「(1) 実際に韓国旅行で利用可能な授業内容を提供する、(4) 学習者に達成感を体験させる」を成功させるため、以下のようなものを授業中に学習者のペースで自由に記入させ Moodle に提出するようにしている。

①聞いている途中で自分の理解に疑いを持った時点で、該当するテキスト箇所を目印をつけ、以下に何が理解できなかったか書いてみてください。(単語、文型、表現など)

②今日のリスニング中で自分が理解していた単語、文型、表現などを書いてみてください。(ここまでは分かっていたとか)

③今後、旅行に行ったときに使えるような表現などを書いてみてください。

学習者自身が授業内容に対して理解している部分や理解していない部分を自己評価しつつ、達成感も感じていただいている。また上記の③を記入させることにより、自らもっと学ぼうとするというやる気と興味が湧き、主体的な学びにつながると窺われる。

3.2.5 中間試験後の映画鑑賞を通じた学習

3.1 で述べた「(4) 学習者に達成感を体験させる、(5) 韓国及び韓国文化に対する関心を深めるため、文化的要素の紹介を随時行い学習意欲を持続させる」を実行するためにすべての授業で実施している試みである。映画鑑賞の途中と鑑賞後に以下のようなものを記入させ Moodle に提出するようにしている。

①この映画を見た後の感想を自由に述べてください。

②聞こえた単語とか表現があったら何でも構わないので、自由に書いてみてください。

③映画を見ながら日本の文化とは違うと感じた点があれば記入し、それについての感想も書いてください。

授業中に学習してきた単語や表現などが聞こえるようになり、自分自身の学習状況を把握できると同時に達成感までも感じるができると思われる。また上記の③を記入させ

¹² Papago、DeepL、Google 翻訳という3種類のアプリを用いている。

ることにより、異文化に気付くこととなり韓国や韓国語に対しても好奇心が湧き出て学習意欲も向上されると予測される。さらに、映画の中で出てきた日韓の文化の違いについては映画鑑賞後に筆者が解説を行い、学習者の知的好奇心が旺盛になるよう働きかける。

3.2.6 iPad を使用した効率的な板書¹³

3.1 で述べた (7) 「iPad を用いた板書により、無駄な時間を削減し学習効率を向上させる」を叶えるために試みた。従来の板書だと授業内容の解説を書いたり消したりする時間がかかりかかるし、先生の背中で板書が見えないため学習効率があまりよくなかった。しかし、iPad を使用した板書によりホワイトボードが見えないという問題点も改善されるし、書いたり消したりする時間の無駄も削ることができる。また、この浮いた時間を韓国文化の紹介などの時間に充てることも可能であるため、積極的に取り入れるべき学習活動であることに疑いの余地はないと見受けられる。

3.2.7 Quizlet を活用した学習

3.1 で述べた (3) 「受動的な学習姿勢を脱却させ、知的好奇心を刺激し主体的な学びへと導く」を成功するため、また単語の勉強や試験勉強をする際に有効活用してほしいため、筆者が担当しているすべての授業にて提供している。Quizlet を活用した学習は様々な学習スタイルがあり、学習者が英語でも使い慣れているため使い方に困ることなく、自分のペースで小テストや試験勉強を進めることができる有益な学習セットであると確信している。

3.2.8 Moodle を活用した授業関連の補助資料を提供

3.1 で述べた (8) 「Moodle を活用し、授業関連の補助資料を提供することで自主学習を容易にする」を実現するために取り組んでいる。これは、解説資料を用意する教員の負担は多少あるが、テキストに単語の音声は付属してないため小テストの勉強に役立つ実践であり、学習者のペースでいつでもどこでも学習できる使い勝手が良い学習活動として意義が大きい。

3.2.9 韓国及び韓国文化の紹介

3.1 で述べた (5) 「韓国及び韓国文化に対する関心を深めるため、文化的要素の紹介を随時行い学習意欲を持続させる」という教育方針を可能にするために、時間の都合上実施できない場合を除き日韓の文化の違いや生活習慣の違いなどを PPT 資料や映像を用いて紹介をした。その後、Moodle のフォーラム機能を利用し学習者間の意見交換や感想の共有を実施した。この促しによって、学習者に異文化理解の重要性を認識させたこととなり、学習のモチベーションを維持すると同時に、主体的な学びへの関心を喚起したと言える。また、学習者同士が学び合える学習の共生性を強化する工夫にもなったと推定される。

¹³ iPad 上で使用できるメモアプリは様々であるが、授業中に板書したものを動画にしてほしいという学習者の要望が多数あったため、板書と動画が同時にできるし筆者が以前から使いこなしている Explain Everything BASICS を用いた。

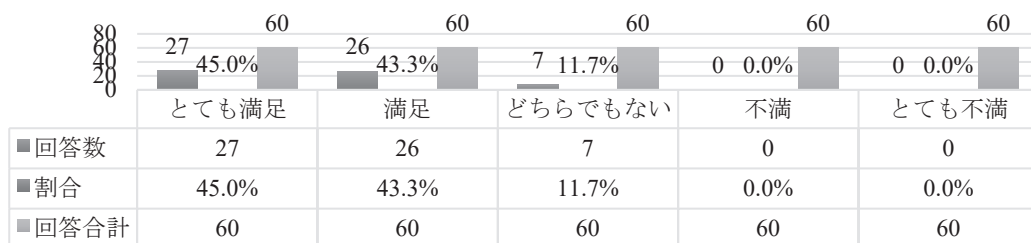
4. 授業後のアンケートによる評価と考察

本節では、終了時の授業で Moodle を介して実施したアンケート調査の結果に基づく考察について述べる。「韓国朝鮮語Ⅱ」のリスニング科目に参加した 60 名の学習者を対象に、(1)「グループワークを中心とした学習」(2)「グループのメンバー間の情報共有を通じた学習」(3)「辞書アプリ（音声検索を含む）を活用した学習」(4)「モニタリングシートによる自己評価」(5)「中間試験後の映画鑑賞を通じた学習」(6)「iPad を使用した効率的な板書」(7)「Quizlet を活用した学習」(8)「Moodle を活用した授業関連の補助資料を提供」(9)「韓国及び韓国文化の紹介」について学習者が授業に対してどのような実感を持って評価しているのかを選択式の質問項目とそれぞれの実践についての自由記述式のコメント欄を設けて返答していただいた。また、アンケートの最後には「韓国朝鮮語Ⅱ」のリスニング科目受講後の授業全体に対する直接的な感想も自由記述で収集した。

4.1. グループワークを中心とした学習の反応

図 1 に示されるように、「グループワークを中心とした学習はどうでしたか？」との問いに対し、「とても満足」と「満足」の応答が全体の約 9 割近くを占めることから、学習者からの高い評価が窺える。しかし、「どちらでもない」と答えた学習者も 7 名確認された。自由記述では、「もう少し時間が欲しい」と「消極的なグループの場合グループワークが難しかった」という意見が見受けられ、時間配分の見直しと消極的な学習者への支援が必要であると示唆される。

図 1 グループワークを中心とした学習



以下は、「グループワークを中心とした学習はどうでしたか？」に対して自由コメント¹⁴を入力していただいた結果である。多数寄せられたコメントの中から筆者が選定を行い、肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけて紹介する。

- 聞き取れなかったところを教え合ってできるのでよかった。
- 自分のわからなかったところを、仲間との共有で解決できたりするのでぜひ続けてほしいと思った。
- グループ内で相談しながら課題に取り組むことができたので、楽しみながら学習するこ

¹⁴ 自由コメントは原文のまま紹介している。また、内容が同様な回答が多くあったため、ポジティブなコメントとネガティブなコメントを合わせて 5 個以内に限定し紹介することにした。

とができました。

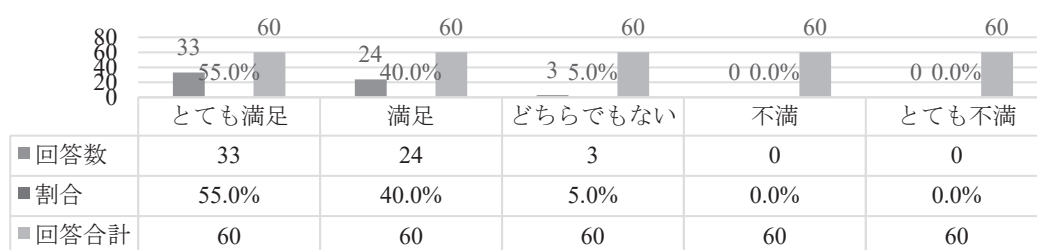
★もう少し時間が欲しい。

★消極的なグループの場合グループワークが難しかった。

4.2. グループのメンバー間の情報共有を通じた学習の反応

図2において、学習者は「グループのメンバー間の情報共有を通じた学習はどうでしたか?」との問いに答えている。約95%の学習者が「とても満足」または「満足」と回答し、「お互いに分からなかったところを教え合うことができ、身につけやすかった」、「聞き取れなかったところは教えてもらい、反対に周りの人が困っていたら助けたりと協力して学習を深めることができました」という感想が多数寄せられた。一方で、「消極的なグループの場合グループワークが難しかった」や「気まずい時が多々あった」との意見もあった。これらのコメントは、教員がより積極的な学習環境を促進する必要があることを示唆している。

図2 グループのメンバー間の情報共有を通じた学習



以下は、「グループのメンバー間の情報共有を通じた学習はどうでしたか?」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

●自分の回答（聞こえた言葉）が合っているのか不安だった時に確認できて有り難かったです。

●回答を確認して議論することで韓国語への理解が深まった。

●分からないときでも互いに教え合うことが出来たため、安心して授業に参加できた。

★消極的なグループの場合グループワークが難しかった。

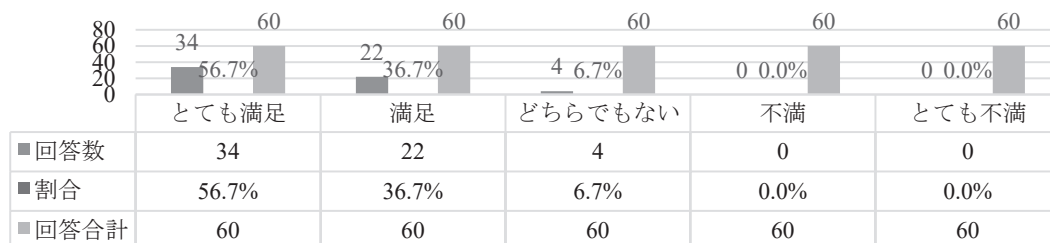
★気まずい時が多々あった。

4.3. 辞書アプリ（音声検索を含む）を活用した学習の反応

図3におけるアンケート結果から、「辞書アプリ（音声検索を含む）を活用した学習はどうでしたか?」という問いに対して、「とても満足」「満足」と答えた学習者の割合が全体の約93%に上った。肯定的な自由記述としては、「辞書を使うことで違う発音をすれば違う答えになるため、発音の練習になった」、「発音が正しくできていないと正しい回答が得られないため、自身の発音を見直す機会になってよかった」という意見や、「papagoを使

った学習は楽しかった」とのコメントが寄せられた。これらは、アプリを使用することで気軽かつ楽しく学習が行え、正しい発音への意識が高まるという肯定的な効果を示唆している。否定的な意見としては、「辞書に頼りすぎてしまう点」、「少し精度が落ちる辞書アプリがあった」というコメントがあった。音声検索の精度に関しては、韓国の企業が開発した Papago が最も高い精度を示し、DeepL や Google 翻訳はそれに続く形で精度が低下する傾向があった。今後は、音声検索を Papago に限定し、アプリへの過度な依存を避けるため、印刷された単語リストや配布される教材を積極的に参照するように学習者に促す必要があると考えられる。

図3 辞書アプリ（音声検索を含む）を活用した学習



以下は、「辞書アプリ（音声検索を含む）を活用した学習はどうでしたか？」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

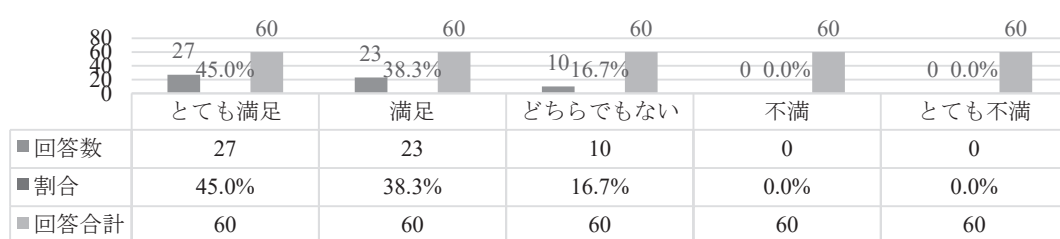
- 初めて使いましたが、自分で発音することで韓国語を聞き取りやすくなったなと感じました。わかりやすかったです。
- 使いなれていくと翻訳されるように発音も気をつけられるので良い！
- 自分の発音も上達した気がする。
- ★辞書に頼りすぎてしまう点。
- ★少し精度が落ちる辞書アプリがあった。

4.4 モニタリングシート（Moodle に提出を含む）による自己評価の反応

図4に示す質問に対する回答から得られた「モニタリングシート（Moodle に提出を含む）による自己評価はどうでしたか？」の結果では、参加者の約80%以上が「満足している」と回答した。自由コメントからは、「授業で何が分かって分からなかったのか復習できて良かったです」、「自分の理解度を確かめてくれるのでとても良いと思いました」といった積極的な意見が多数寄せられた。これらは、学習内容に対する理解度の確認や授業の振り返り・復習に有益であるとの感想が示唆され、これが自己肯定感の向上にも寄与していると考えられる。その一方で、「ノート欄みたいなものがあると便利かもしれない」や、「振り返りはできてよかったです、モニタリングシートを書く時間がなくて毎時間少ししか書けなかったのが改善されるといいなと思いました」といった改善の余地を示唆する回答も見受けられた。これらの意見から、今後の改善点としてノート欄の追加やシート作成時間の工

夫が検討されるべきであることが示唆されている。

図4 モニタリングシートによる自己評価



以下は、「モニタリングシート（Moodleに提出を含む）による自己評価はどうでしたか？」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

- 自分で意識付けて、苦手なことできるところを明確に考えていけるのでよかった！
- 自分の分からなかったところをモニタリングシートに記入することで、自分の理解度を確認することができたし、Moodleでの提出なので紙が手元に残って後で見返すことが出来たのでよかった。
- 分からないところが明確になったし、知ってる表現を書くことで自己肯定感が上がった。
- ★ノート欄みたいなのがあると便利かもしれない。
- ★振り返りはできてよかったですが、モニタリングシートを書く時間がなくて毎時間少ししか書けなかったのが改善されるといいなと思いました。

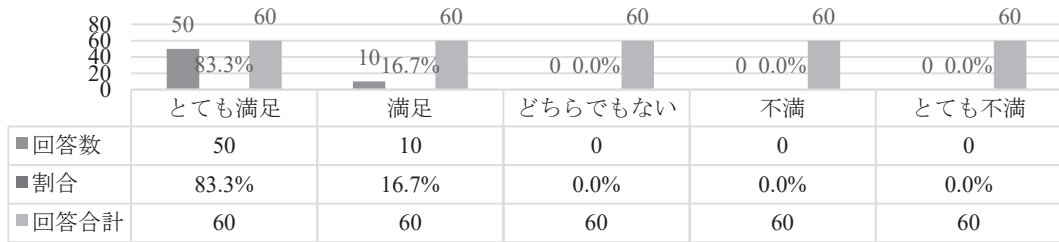
4.5 中間試験後の映画鑑賞を通じた学習の反応

図5に基づく質問「中間試験後の映画鑑賞を通じた学習はどうでしたか？」に対して、全学習者が満足していると回答した。これは、本実践が韓国語教育において有効であることを示唆し、先行研究の結果を裏付けるものとなった。また、肯定的な自由記述としては、「内容が面白かったし、授業を受ける前よりリスニング力が少し上がってあることを確認できたのがよかった」、「視聴する中で韓国語が身につけてきているのがわかるため、やる気に繋がってよかった」、「言語だけでなく、韓国の文化を学ぶことができた」という声が集められた。これらのコメントは、映画鑑賞が韓国語学習における自主学習意欲の向上とともに、文化的理解の深化に寄与していることを示している。今回の映画に関する否定的な意見はなく、全体的に肯定的な反応が得られたことは、この学習方法の有効性を裏付けるものである。

以下は、「中間試験後の映画鑑賞を通じた学習はどうでしたか？」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

- 韓国という国に対して親しみを持たた。
- 映画を通して韓国の文化について学ぶことが出来て楽しかった。

図5 中間試験後の映画鑑賞を通じた学習

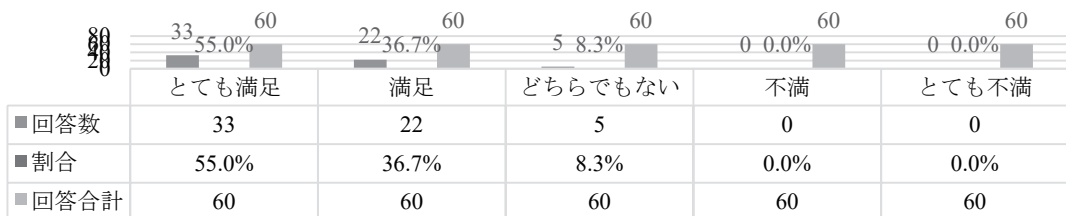


- 映画は非常に感動した。韓国語でもわかる部分が出てくるとうれしいし、もっと韓国の文化を知りたいと思った！良い機会になった！
- 韓国映画を初めて見ましたが、先生が文化の違いなど所々で教えてくださったので見やすかったです。

4.6 iPadを使用した効率的な板書の反応

図6に示されるアンケート結果では、「iPadを使用した効率的な板書はどのように感じましたか？」という問いに対し、約9割以上の学習者が満足していると回答し、8%程度が中立的な意見を示した。肯定的な自由記述としては、「写真があったりして理解しやすかったです」、「付け足したところなどがすぐわかるのでよかったです」、「PDFが表示されていたりして理解しやすかった」、「写真などもすぐに見れるし、拡大して見やすくしてくれるのもとても良かった」というものが多く確認された。これらのコメントは、iPadを用いた板書が学習者にとって理解しやすく、視覚的に魅力的であったことを示唆している。その一方で、少ないものの否定的なコメントとしては、「照明の加減で見づらい時があった」、「見やすかったが、すぐ消えてしまうところが難点」という回答があった。これらの反応は、iPadを使用した板書の方法において、一部の改善の余地があることを示している。今後の対策として、板書した内容をMoodleなどのプラットフォームで共有することを検討することが望ましい。

図6 iPadを使用した効率的な板書



以下は、「iPadを使用した効率的な板書はどのように感じましたか？」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

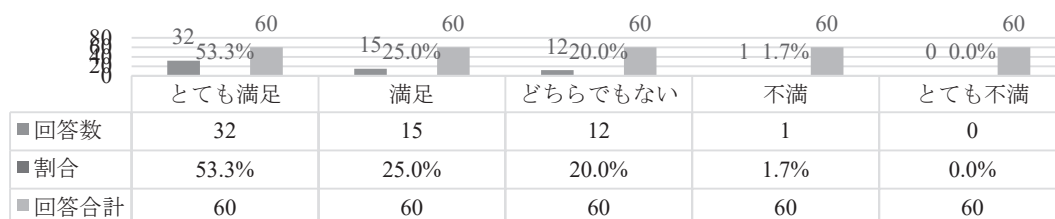
- 黒板ではなく、iPadをスクリーンに映していたので、後ろの席でも見やすかった。

- 見えにくいところは拡大してみることができるので、良かった。
- 席が後ろの方だったので、チョークだったら見えなかった気がするので今のままがいいなと思った。
- ★照明の加減で見づらい時があった。
- ★見やすかったが、すぐ消えてしまうところが難点。

4.7 Quizlet¹⁵ を活用した学習の反応

図7に示されるアンケート結果では、「Quizletを活用した学習はどうでしたか?」という問いに対する学習者の反応を探った。約8割近くの学習者が「満足している」と回答し、約1割が中立的な意見を示し、1名が不満足であると回答した。他の学習方法と比較してやや評価は低いものの、肯定的な自由記述としては、「プリント以外で、学習の定着を図ることができた」、「自主的に単語の勉強ができました」、「何回も繰り返せるし発音が聞けるので勉強しやすかった」、「学習しやすい環境が整っていたなと感じた」という意見が寄せられた。その反面、ごく少数ではあるが、「個人的にQuizletは使いづらいためあまり使わなかった」、「使わなかったからわからない」という否定的な意見も見受けられた。今後の方針として、Quizletの利用を促進するために、その利便性と学習効果をより明確に示し、自主的な利用を奨励することが重要である。

図7 Quizlet を活用した学習



以下は、「Quizletを活用した学習はどうでしたか?」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

- Quizletは様々な機能があるので、それらを小テストの勉強に活用できた。
- 音声と一緒に単語が覚えられてよかった。
- 自習でとても役に立ちました。
- ★個人的にQuizletは使いづらいためあまり使わなかった。
- ★使わなかったからわからない。

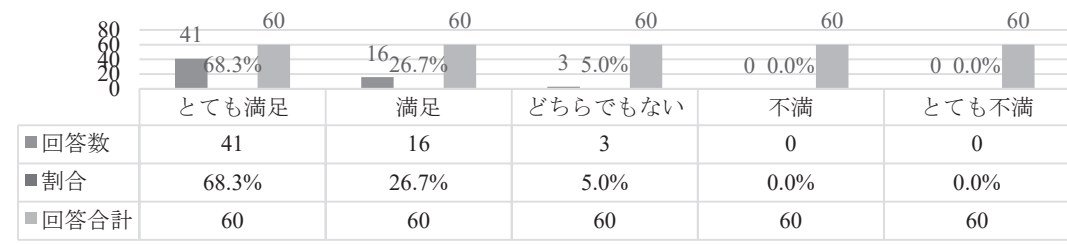
4.8 Moodle を活用した授業関連の補助資料を提供の反応

図8に示されるアンケート結果は、「Moodleを活用した授業関連の補助資料を提供はど

¹⁵ 須賀井・小島(2019)では、Quizletの特徴を①単語カードだけでなく、学習のモードが豊富、②自動音声合成で、音声も利用できる、③学習者の進捗状況が把握できるの3点である報告している。

うでしたか?」という問いに対する学習者の反応を捉えている。約 95% の学習者が「満足している」と回答し、肯定的な自由記述としては、「テスト対策に便利で実際に音声聞いた時は定着もよかった!」、「自分の確認したい単語などの発音を好きなタイミングで聞くことができたので、良かった」、「中間試験や期末試験の勉強にとっても役立った」という返答が多数見られた。これらは、授業内容を自由に復習できること、また欠席した場合でも学習を継続できることが学習者の満足度を高めたことを示している。この節においても、前述の 4.5 節での映画鑑賞と同様に、否定的なコメントは観察されなかった。

図 8 Moodle を活用した授業関連の補助資料を提供



以下は、「Moodle を活用した授業関連の補助資料を提供はどうでしたか?」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

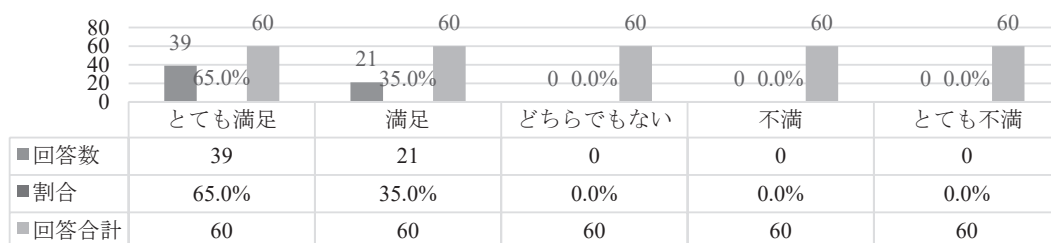
- 自分が苦手な発言を何度も聞き返すのに活用できたのでとても役に立った。
- 先生の発音をいつでも聞けるので復習にはとても便利だった。
- 正しい発音で覚えることができて本当に良い。
- 欠席した時に、活用できるので良かった。
- 動画があったことで、わからなくなった時に理解がしやすかったです。

4.9 韓国及び韓国文化の紹介の反応

図 9 に基づくアンケート結果は、「韓国及び韓国文化の紹介はどうでしたか?」という問いに対する学習者の評価を探り、全学習者が満足しているという結果が得られた。肯定的な自由記述としては、「自分ではなかなか得ることのない情報を知ることができて、異文化理解に繋がっていいと思う」、「韓国の文化に触れることで、より韓国への興味が湧いたので良かったと思いました」、「韓国について知らないことをたくさん知れて、ますます韓国に行ってみたくなった」、「韓国に興味をわくことで、学習のやる気に繋がった」という意見や「パワーポイントを振り返りながら、感想を書き込むことができたので良かったです」という反応が見受けられた。これは、韓国文化の紹介が学習者の主体的な学習意欲と韓国語学習への関心を刺激したことを示している。さらに、Moodle 上のフォーラムを通じて学習者間の感想の交換が行われたことで、多様な視点からの意見に気付かされ、学習者間の相互学習が促進されたと推測される。こうした交流は、学習者が主体性を持ち互いに学び合える教育環境を構築する上で重要な要素である。前述の節と同様に、この節でも否定的

な意見は確認されなかった。

図9 韓国及び韓国文化の紹介



以下は、「日韓の文化の違いなどの紹介」に対して自由コメントを入力していただいた結果である。

- まだまだ観光の知らない文化があることが分かり、面白かった。日本との違いについて、比較できる部分が多くあり、楽しかった。
- 他国の文化を知るのは楽しい。とても興味深かった。
- 韓国の文化を知ること息抜きにもなったしモチベーションにも繋がった。
- 異文化を理解することができてとても嬉しかったです。
- 韓国の文化やどんなものがあるのかなどということが良く分かり、楽しく学ぶことができた。

5. 授業全体に対する学習者の感想及び要望の分析

本稿では、「韓国朝鮮語Ⅱ」のリスニング科目の受講後、学習者からの率直な感想と要望をアンケートを通じて収集した。学習者からは様々な肯定的なコメントが寄せられ、授業に対する高い評価が示された。特に、韓国旅行に役立つ具体的な表現を学び、実際の旅行に対する興味と意欲が高まったこと、質問しやすい環境が提供されたこと、先生の発音を聞いて模倣する学習スタイルが楽しく有益であったことなどが強調された。また、学習者はリスニング能力の向上だけでなく、韓国文化への理解を深めることで、言語学習における自己肯定感とモチベーションの向上を感じたことを示している。異文化理解の機会が提供されたことにより、学習者は韓国という国に対する興味を深め、より積極的に学ぼうとする姿勢を見せた。一方で、改善の余地として寄せられた貴重な意見としては、「映画とかドラマ、テレビ番組などを使った聞き取りのトレーニング（文章穴埋めとか）もあったら面白いと思った」という提案があった。この意見は、授業内容をより多様化し、学習者の関心を引き付けるための重要な指摘である。今後の授業計画において、映画やドラマのセリフをリスニング教材として組み込むことを積極的に検討したい。

- 韓国旅行で役に立つものが多く、韓国旅行に行ってみたいと思うようになった。
- 私が受けている全ての授業の中で、1番先生に質問しやすい環境だったと思います。機

会があればまた先生の授業を受講したいと思いました。

●先生の発音を聞いて、自分で発音するという流れが、楽しかったし、とても身になっているように感じた。

●とても自分から学ぼうという気持ちを高めることができました！発音もなかなか始めは機械にわかってもらえず焦っていたが何回もっていくうちに韓国っぽい発音ができ、それがさらにやる気になりました！

●旅先で使える表現をたくさん教えてもらったので授業だけでなく、日常生活でも応用できるので、とても貴重な時間だった。

●分からないときでも互いに教えあうことが出来たし、様々な韓国旅行の際に使えるフレーズを学ぶことが出来てよかった。韓国に行った際には、ぜひ使ってみたい。

●韓国文化を紹介することで韓国という国への理解を深めることができた。

●前期よりも韓国語を聞き取る力がついたと思います。授業内容もとても分かりやすくて学ぶのが楽しかったです。

●とてもわかりやすく楽しい授業で、韓国が少しずつ身についている実感ももてた。

●知識もそうだけど実践的な韓国語が学べて、前期に学んだことを定着させるためにとてもいい機会だった。アイドルやドラマなどのコンテンツを見るときに、前より聞き取れる部分が増えたのを実感できた。

★映画とかドラマ、テレビ番組などを使った聞き取りのトレーニング（文章穴埋めとか）もあったら面白いと思った。

6. おわりに

本稿では、韓国語のリスニング授業において、学習者が主体的に学び合う環境を目指し、様々な教育実践を報告した。アンケート調査を通じて得られた学習者の反応は、授業方法が学習者に好評であったことを示している。特に、グループワークを中心とした学習活動、辞書アプリを活用した学習、モニタリングシートによる自己評価、映画鑑賞を通じた文化学習などが学習者からの高い評価を得た。しかし、一部の学習者からは、グループワークの難しさ、辞書への過度な依存、モニタリングシートの記入時間不足などの改善点も指摘された。これらの反省点を踏まえ、今後はより効果的で学習者に寄り添う授業を展開していくことが望まれる。本研究の結果は、韓国語教育における授業方法の改善と発展において重要な示唆を提供している。各学習活動の効果と学習者の反応を詳細に分析することで、より充実した教育プログラムの構築に寄与することが期待される。

今後の授業計画においては、学習者の要望を反映した教材の選定、学習者主導の活動の増加、及びより実践的なリスニング教材の導入を検討する。また、学習者が互いに学び合うための環境づくりにも注力し、グループワークや協同学習の機会をさらに充実させることが重要である。学習者の異文化理解と言語能力の向上を目指し、授業内容の多様化と深化を図ることで、より効果的な韓国語教育が実現されることを目指す。

本研究から得られた知見は、韓国語教育のみならず、他の外国語教育においても応用可

能であり、教育の質を高めるための一助となることを期待する。これらの結果は、今後の教育研究においても重要な基盤となり、学習者中心の教育実践の進展に貢献できることを願いたい。

参考文献

林河運 (2014) 「韓国語学習者の意欲向上を目的とする学習法の試みとその検討—グループによる学習に注目して—」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第9号, 119-133.

林河運 (2015) 「グループ学習を取り入れた韓国・朝鮮語のリーディング授業の実践報告」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第10号, 95-111.

林河運 (2020) 「韓国語の試験対策クラスにおける一考察——グループワークを中心とした授業の試み—」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第15号, 77-92.

須賀井義教・小島大輝 (2019) 「韓国語の授業における ICT ツールの活用事例—Quizlet と Kahoot! について—」『朝鮮語教育—理論と実践—』第14号, 朝鮮語教育学会, 93-108.

東京大学大学経営・政策研究センター (2018) 「第2回全国大学生調査」<https://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/cat77/cat82/22018.html> (2023年12月15日閲覧)

中野民夫 (2016) 「大教室での参加型「教える」より「学び合う」場をつくろう！」中野民夫・三田地真実 (編) 『ファシリテーションで大学が変わる』33 - 49, ナカニシヤ出版